おしっこもふくめて「お手洗にいきましょう」と言ったのだがはじめから失敗である。

子どもの理解できることばで話さなければと反省させられる。

四月二二日（くもり）

子どもの表情も明るく元気になってきた。

今日は月曜日のためかおちつきがなくさわがしい。

礼拝のとき、サークルのまん中にひとりの子どもがとび出したら他の子どももまねをし、やっと静かになった。礼拝がめちゃめちゃになってしまった。

そのときの子どもの状態に応じたプログラムでなければと思う。

五月十日（晴）

ちょうど入園より一ケ月

今まで私のそばにばかりついていた子どもがひとり、ひとりと減り、子どもたちの遊びの中へ入ってゆく。はじめは返事もできなかった子どもも先週より返事ができるようになってこちらが誘導してやれば遊びに加わり楽しそうである。

一造ちゃんと健司ちゃんは朝から一しょに積木をしたりすべり台に乗ったりしている。どうやらお友だちになったらしい。

一造ちゃんはバスで通園している。

帰りにバス通園の子どもたちと一しょに停留所まで送っていった。ところがついてみると一造ちゃんの姿が見えない。方々捜したあげく、バス停留所のちかくにある健司ちゃんの家にいることがわかった。もうお友だちと道草することもおぼえたのだろうか。明日からこのようなことのないようにしなければならない。

もう二学期を迎えているが今までをふりかえってみると、入園のときは元気な子どもがあったにしても何かしら不安なようすだった子どもたちが、この四ケ月間にどの子も明るく笑顔でもって登園できるようになった。やっと幼稚園生活にも慣れて、これからそれぞれの個性を発揮するのだろう。

今まで小さなことながらいろいろな問題にであったけれども、その場で解決されたものも今なお解決されない問題もあり、自己の足りなさを身にしみて感じるが私自身たえず新鮮な知識を吸収し、与えられた子どもに対して使命をまっとうしたいものと思っている。

（幼稚園教諭・仙台）

この頃思うこと

田中阿い

社会的に相当な働きをなされている方々の中に、幼稚園は贅沢な教育機関であるという考えを心の底に持ったお話を、しばしばきます。そんなとき、近くの場合には、「そんなに割切らないでください。」と注文しますが、遠くの場合は「幼稚園教育のみち今なおけわし」と推察して、この教育の仕事にたずさわる者たちひとりびとりの情熱をかきたてたいあせりさえ感じます。

九月中旬、東海地区の国公私立幼稚園合同で第六回東海幼稚園教育研究協議会が、長野県長野市において開かれましたが、その協議題の中にも、「幼稚園教育を向上させるために、地域社会との連絡をどのようにすべきか。」という問題がありました。自分のながい小

学校の教師時代には、特別にふれなかった問題で、いまさらのように、義務教育という法の中にみとめられた生活の、そうした面への苦労の少なかった教師時代が、なつかしくかえりみられました。そして、ただ子どもたちと、とっくむ生活に、とけこんでいけたことを思うと、幼稚園にもそんな時代が一日も早く訪れてくれたらよいがと願います。

地域社会の人々が幼稚園教育を理解して、望ましい幼稚園教育が、がっちりと打ちたてられていくために、私たちの努力は、こつこつとたゆみなく各方面に、続けられていかねばなりません。自分をふりかえってみますと、二十余年の小学校の教師の、しかも主として低学年の生活にあけくれておりながら、その一つ幼ない段階の子どもたちの生活にとりくんでこんなにも真剣に悩み、苦労している多くの教育者のあることを知らなかった自分のうかつさを申しわけなかったと思います。

この頃、幼稚園を、義務教育にすることが望ましい。とゆう意見をきかれるようになってきましたのは、就学前の教育の成果が、みとめられてきたしるしのようにも思えて、さあこれから、と心のしまる思いがします。

そこで幼稚園教育を義務教育とすることによって生ずる種々な問題が考えられてきます。その一つとして、就学前一年の子どもの集団生活へのとけこみ方と、小学校一年の子どもの集団生活へのとけこみ方と、それにともなう抵抗度がどうも幼稚園の場合の方が強いようにみうけられ、個人差のでこぼこが幼ない時代ほど多いように思われます。たとえばいろいろな遊びをしたり、行事をしてみても幼稚園の場合の方が問題が生じます。とにかく現行の一年生の段階を一年下に下げるというような取扱いでなしに、幼稚園の年長組を義務教育とする場合の考慮は慎重になされてほしいと思い、また大勢の人々でこの問題を真剣に考えたいと思います。そして、制度の上からも安定した教育機関となり、何事につけても、義務教育でさえ充分にできないものを、ましてや幼稚園などは……などといわぬ日の訪れを、ひたすらに待望してやみません。（幼稚園長・静岡）

初心者の悩み

鈴木ノリ

「先生さようなら」と、保育中は手に負えない、いたずらをして暴れまわっていた子どもたちも、お帰りのときだけは素直になって、ピョコンと、おじぎをして帰っていきます。

その後姿を見るにつけ、いつも心さびしく思うことはYちゃんのこと。

Yちゃんが幼稚園に姿を見せなくなってから、もう二ケ月になります。訪問すると「どうしても幼稚園にいきたがらなくて、どうも困ったものです。今まではそんなことはなかったのですが、最近になってこんなことになってしまって」というありさま。そうしてお家の方では幼稚園をやめさせるつもりでいるのです。

Yちゃんの家から幼稚園までは、子どもの足で四五十分はかかるでしょう。七月はじめまでは、そんなに遠くからも、平気で何ごともなく、元気に登園していたのに、どうして急にいやになったのか